

事業報告書

日時	令和元年10月5日(土) 9:30~11:30
目的	<p>男性の家事・育児参画を促進していくためには、男女が協力して家事・育児を行ったり、男女が共同して社会に参画したりすることの重要性や家庭の大切さについて、教育・啓発を通じて伝えていくとともに、生活を営むために必要な衣食住や保育などに関する知識や技術を身に付けられるような取組を行うことが重要である。</p> <p>今回の講座では主に育児初心者のお父さんを対象に子どもと一緒に参加する絵本読み聞かせ講座を実施し、読み聞かせに関する基本的技術を学ぶとともに、お父さんの子どもへの関わりを促すことを目的とする。</p>
対象	お父さんと子ども(1歳から未就学児)
講師	玉城 米子 氏(NPO法人子育て応援隊いっぽ 理事)ほか3名
会場	ていりる3F 和室でいご・ゆうな
参加者数	親子10組 (男性10名 子ども11名)
講演内容(概要)	<p>1 親子ふれあい遊び、手遊び</p> <p>自己紹介の後、げんこつやまのためきさん、みーみんめー、おちたおちたを行い子どもとのふれあいを促した。家庭でも移動中や空いた時間に行って子どもとふれあうのがよいと助言があった。</p> <p>2 講話</p> <p>お父さんを集めて、玉城理事から絵本読み聞かせの意義や絵本の選び方などについて、講話があった。子どもは隣の和室でお手玉や歌などで遊んでいた。</p> <p>【絵本の役目】</p> <p>なぜ絵本でコミュニケーションを取るのか。親が子育て中にスマホなど自分が好きなものだけに目を向け、赤ちゃんに目を向けないことが課題となって乳幼児対象にブックスタートが始まった。</p> <p>子どもが読み聞かせ中に目を離すのはアイコンタクトなので、気にせず読み聞かせを続ける。子どもの動作をプラスに考えてほしい。乳児は音や絵に興味がある。読み聞かせの際は文字に指を差さないように注意してほしい(指に目線が行って絵を見ないので)。絵本の場面に言葉をプラスして読み聞かせするのも効果的。</p> <p>【読み聞かせのコツ】</p> <p>無理に役で声を変えず、自分の声で読み聞かせを行い、お父さんのカラーを出して、お父さんお母さんも絵本を好きになってほしい。途中で子どもが離れてもすぐに読み聞かせはやめないでほしい(興味がなくなってしまうことがある)。また、読み聞かせを行いながら、子どもに質問の投げかけをしたりして、疑問と想像力を養っていく方法もある。</p> <p>【お父さんによる読み聞かせ効果】</p> <p>子どもはお父さんの声は安心するので、家庭で読み聞かせをしてほしい。</p> <p>【集団と家庭での読み聞かせ】</p> <p>保育所などにおいて集団で読み聞かせをする場合、気づいたら何でも言っていていいという風に行うやり方があり、他の子どもが答えたりして絵本の話が深まっていくことがある。</p> <p>家庭では家族みんなの声で子育ての愛情を受ける。家族みんなで育児に協力して読み聞かせを行ってほしい。</p> <p>3 読み聞かせ実践</p> <p>1, 2歳グループと4~6歳グループに分け、親子で読み聞かせを行ってもらった。</p>

1, 2歳グループは少し騒がしかったが（長時間で疲れたのか）、4～6歳グループは比較的静かに読み聞かせを行っていた。

4 みんなで楽しく

いっぽのみなさんが手人形やペープサートを使い劇を披露していた。（こぶた・たぬき、おはながわらった、ぞうさんのさんぽ）

参加者は親子で楽しんでいた。



（自由記載欄より抜粋）

なかなか母親べったりなので、絵本を通して子供と向きあってみたいと思いました。

参加者の声

親子ともども楽しめる講座でした。ありがとうございました。

「役に応じて声を変えなくてもよい。」に安心しました。読みやすくなりそうです。

色々な声を聴かせた方がいいとわかった。

役づくりをせずたんたんと読んでいいと聞いたので安心しました。

主催等

主催：（公財）おきなわ女性財団